

## 4 評価から窺える検討の方向性に関するサマリー

## 2. 看護技術到達度評価

注：検討事項：技術到達度表の【分類】＜項目＞[細目]を表している

課題	検討事項	検討の方向性 (案)
エンドオブライフケア	<b>【死の看取りの技術】</b> ＜臨終間際の行動＞が学生の評価は1点台である。＜死の診断とその後の対応＞＜死後の身体変化の理解と必要な対処＞がいずれの科目でも扱っていない。 <u>エンドオブライフケアに関する科目を設けるか、既存の科目で網羅することができるか学習効果も含めて検討必要。</u>	科目の連動性
特殊治療（化学療法・放射線療法）	<b>【特殊治療】</b> ＜化学療法＞評価は2未満である。実習で体験することが難しければ到達度3を下げる検討が必要。その際は、学内でしっかり教授し演習等で知識を定着する必要。＜放射線療法＞は成人概論で講義をしている。 <u>講義や演習、実習での学修の定着のしかたを検討する必要がある。</u> 特殊治療（化学療法・放射線療法）に関しては全体の低さと共に、学生間の評価のばらつきが大きい。	科目の連動性
クリティカルケア	<b>【救命救急処置】</b> ＜救急カートの整備・点検＞＜緊急時の行動＞＜一時救命処置＞＜二次救命＞は演習でも経験していない。＜止血＞＜洗浄＞[156 胃洗浄実施時の援助]はどの科目でも扱っていない。救命救急処置の技術分類はほとんどが急性概論で講義、援助Ⅱで演習、また小児で講義を行っている。 <u>実習で見聞するのは難しいのか。</u> <b>【創傷管理】</b> ＜創傷処置＞[熱傷]は扱っていない。 <b>【症状・生体機能管理技術】</b> ＜簡易血糖測定＞実習で体験していない学生がいる。＜穿刺の介助＞具体的には取り扱っていない。＜周術期＞急性援助Ⅰ・小児で扱っている。 <u>生体機能アセスメントをはじめとするクリティカルケア科目の範疇を検討し、科目の整理をする必要があるか。</u> <b>【呼吸・循環】</b> ＜酸素吸入法＞低い達成度。＜気管内吸引＞扱っていない。口腔内吸引を基礎で演習し、その応用として専門領域で講義や演習が必要ではないか。＜持続吸引＞実習での受け持ち患者の状況が影響するか。 <b>【安全管理の技術】</b> ＜災害発生時の対応＞評価は低い。国家試験出題基準では人工呼吸器がこの項目だが、クリティカルの範疇。	選択から必修科目への変更
食事	<b>【食事】</b> ＜食事介助＞＜経管栄養法＞＜経静脈栄養法＞＜摂食・嚥下訓練＞。食事という基本的援助技術の項目で応用的な患者状況に関する細目[視力障害]が弱い。 <u>講義・演習の順序性や領域間の連携で効率的に集約できるのではないか</u>	科目間の調整
活動・休息	<b>【活動・休息】</b> ＜歩行介助＞[39 視覚障害*] 食事の項目と同様、どこでも講義・演習がされていない。＜廃用性症候群＞＜ADL評価＞リハビリテーションを看護の視点で捉えられるように科目「看護とリハビリテーション」をPTと看護師の両方で担当はどうか。活動・休息で、複数の項目は低くなっているが、それらをバラバラに何回も教授するのではなく、 <u>「患者状態の把握・判断⇒援助」という一連の援助過程を連動させる必要があるのではないか。</u>	科目間の調整 担当科目で対応
フィジカルアセスメント	<b>【フィジカルアセスメント】</b> ＜身体計測＞＜筋骨格系のフィジカルアセスメント＞＜感覚系・神経系のフィジカルアセスメント＞ <u>他の項目に比べて扱っている領域が少ない。</u> 感覚系・神経系・頭頸部・眼・耳・鼻・口腔、乳房の学修の方法を検討する必要がある。国家試験での出題状況を勘案して扱い方を検討する。構造機能や病態生理ではどのように扱っているかを確認する必要があるか。	科目間の調整
清潔・衣生活	<b>【清潔・衣生活】</b> ＜入浴・シャワー浴＞＜陰部洗浄＞ <u>授業ではどこも扱っていない。</u> ＜口腔ケア＞[義歯]の取り扱い等が経験にばらつきがある可能性。ばらつきに関しては[ひげそり][爪切り]も該当する。	担当科目で対応
呼吸・循環	<b>【呼吸・循環】</b> ＜酸素吸入法＞＜気管内吸引＞＜持続吸引＞＜排痰ケア＞＜吸入＞効率性と効果を検討する必要がある。＜術前呼吸訓練＞目標を下げるか、演習や実習での経験を強化するなどの検討が必要。＜末梢循環促進ケア＞目標に至っていない。呼吸のフィジカルアセスメントでは目標に近い到達度であるが、援助に関する細目は課題が多い。 <u>アセスメントに連動させて学生が理解・修得しやすいように科目を調整して教授する必要があるか。</u>	担当科目で対応
創傷管理	<b>【創傷管理】</b> ＜骨・関節・筋の固定＞牽引は急性で講義、ギプスはどこでも講義されていない。＜褥瘡予防・処置＞学生評価は目標に至っていない。 <u>どこで教授するのが効果的か。</u> 国家試験の出題状況を勘案して検討が必要。	担当科目で対応
与薬・誤薬防止の技術	<b>【与薬・誤薬防止の技術】</b> ＜輸液ポンプ＞＜シリンジポンプ＞＜薬物療法支援・指導＞ <u>薬物療法に関する実習での経験は受け持ち患者の治療に関わる。</u> 患者選定か実習施設や病棟の状況を検討する必要がある。	担当科目で対応
感染予防技術	<b>【感染予防技術】</b> ＜針刺し防止策＞実習では簡易血糖測定場面で体験する程度と思われるので、それらの「手順書」での意味づけができると良いか。	担当科目で対応
全般	科目担当で国家試験出題基準を確認し、関連科目・領域と調整し、効果的・効率的学習経験が出来るように整備する必要がある。	国家試験対策で対応
実習での経験との連動	技術到達度の目標を3以上に設定する細目はほとんどの学生が実習で体験できることを前提とすべきである。よって、学部として実習施設の特性を勘案して、経験できる技術到達度を見直す必要がある。また、必要な技術を経験できる実習環境の提供が求められる。 <u>講義・演習科目と別にカリキュラム検討として実習を検討する必要があるのではないか。</u>	その他